

平成16年10月13日
農林水産省 生産局

第2回家畜改良増殖目標についての研究会（豚）の概要について

下記のとおり、家畜改良増殖目標についての研究会（豚）が開催されました。

記

1. 日時

平成16年10月12日（火） 13:30～15:30

2. 場所

東京都千代田区霞が関1-3-1
経済産業省別館9階944号会議室

3. 出席者

委員：別紙のとおり

4. 議事概要

事務局より配付資料の説明が行われた後、意見交換が行われました。委員からの主な発言は以下のとおりでした。

出荷体重は市場のニーズにより伸びていることから、肥育豚の改良成果としては、出荷日齢に重点を置いた記述が適当ではないか。

改良増殖目標の基本的考え方においては、産肉性や繁殖性といった生産性に関する観点と消費者ニーズに対応した品質の向上という観点の両面から、特長ある豚肉生産を推進するということをわかりやすく記述すべき。

背脂肪の厚さについては、これまで薄くするという改良が続けられてきたが、近年、「おいしさ」に対する消費者ニーズ等もあり、横ばいで推移しているという認識が適当。

雌系品種であるランドレース及び大ヨークシャーの背脂肪の厚さの目標数値については、経済性等の観点から厚くするのは好ましくなく、現状程度とするのが妥当。また、加工仕向け用としての観点からも、現状より厚くするのは好ましくない。

肥育豚の目標数値として、出荷体重、出荷日齢が示されているが、将来的には、1日当たり増体量による記述も検討すべき。

肥育豚の生産現場では、純粋種豚の持つ遺伝的な能力が疾病の影響等により発揮出来ていない状況にあり、SPF等も含めた飼養・衛生管理技術の普及が重要。

現行目標と比較して、肉質の改良に関する記述が増えたことは評価できる。

問い合わせ先

生産局 畜産部 畜産振興課
山本、武久

TEL 03-3502-8111（内線3915、3916）

「家畜改良増殖目標についての研究会（豚）」出席委員

- 阿部 亮 日本大学 生物資源科学部 動物資源科学科教授
- 家入 誠二 熊本県農業研究センター 畜産研究所研究参事
- 石井 和雄 (独)農業・生物系特定産業技術研究機構
畜産草地研究所家畜育種繁殖部家畜育種研究室
主任研究官
- 入江 正和 国立大学法人宮崎大学農学部食料生産科学科教授
- 尾形 眞二 (社)日本種豚登録協会 常任理事
- 鹿又 巖一 (独)家畜改良センター茨城牧場長
- 坂井 達弥 全農 畜産生産部 生産基盤対策課 課長
- 新村 裕 (社)日本食肉加工協会 理事

(は座長)

(計8名)